

○出遅れ部門や発展制限因子にメスを入れる。

例えば、自分のところを充実して、力が余ったら他のところへ力を貸していくという発想が出ることもある。もちろん自己の担当する部門が充実していくには他の部門の充実が先ということは、あり方や理念としては知っている。さて、どうするか？

○まず自分自身がその気になること。

目的はヤマギシの人が育つということ。

毎日の仕事はその練習台。計画があって 思いがあって さて、今日やるという段階で、いろいろなやれない条件が出てきて 白紙のところでもそうした条件を乗り越え取り除いて 対応しつつ 計画を実現にまでもっていくところに もっていける 見届けるところまで やっていける人に。例えば、仕事が忙しい、人手が足りないと思っている場合、体験的には

- ・土壇場に追い込まれたときにこそ、頭がさえてくる。
- ・その仕事が遅いとき、もう一つ仕事を加えると、結果として早くなる。
- ・3人の職場から1人を他職場に送り出すのは難しいが、全員行くとなると行ける。
- ・目標を持ったり、時間を区切ったり、考えることで、一人でやれる限界が無限に広がる等々挙げられるが、要は自分の考えを活かしたり運営することの面白味につきる。

○人を浮かして 他の実顕地へ 新しい仕事へ と行ける場づくり

昨今の実顕地交流に行った人たちの体験発表や各種実顕地づくり研鑽会を通して、大勢の人がそうした「やれてきた実感」を味わっている。そこから生み出される勢い・活気づく気風の高まりのなかで、懸案の事柄が自ずと解決・解消されていくようだ。